

企業名： コーセー

レポート名： コーセーレポート 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

コーセーが目指していく将来の姿を、コーセーレポート 2023 から読み取ることができる。コーセーは 2030 年に向けた取り組みテーマを具体的に上げている。まず挙げられるのが「性差・年齢・人種などにとらわれないアダプタブルな製品・サービスを提供すること」である。2022 年をジェンダーレスやダイバーシティといった「多様性」の意識が加速度的に個人や社会に浸透していった年であるとし、さらに個々人のニーズに合わせたサービスを提供していくことを目標としている。また化粧品を通してジェンダーにとらわれず活躍できる社会へ貢献することや、事業を通して地球や各地域の環境課題への貢献することを取り組みテーマとして挙げている。時代の変化に柔軟に対応し、多様な顧客のニーズに誠実に対応することにより「究極の高ロイヤリティ企業」へと進化するというコーセーの企業目標が、このような取り組みテーマからうかがえる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

コーセーには多様化する市場において、独自性の高いブランドを多数保有しているという強みがある。また各ブランドにおいて多様性を視点に入れた商品展開を行うことで、優位性を保っていると考えられる。具体的には多様な肌に対応するための、数十色のリキッドファンデーションが挙げられる。また低価格帯から高価格帯まで幅広い多様なブランドポートフォリオを構成しているため、価格という観点からも「多様性」を意識し、多くの顧客のニーズに応えるマーケティング戦略を行っていると言えるだろう。歴史あるコーセーのブランド力に加え、時代の価値観に合わせ、より多くの人々のニーズに応えることで生まれるコーセー独自のブランド力がコーセーの競争優位性といえるだろう。また環境課題に真摯に取り組み、客観的な高評価を得ているという点もコーセーのブランド力の強化につながっているだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

コーセーはこれまでに提供してきた独自の価値を維持し、また独自の価値を生み出していくためのサイクルを確立している。各ブランドで「多様性」を視野に入れた商品開発を行い、創業時から受け継がれている安全・安心、高品質のモノづくりを行い、グローバルに原料調達体制を整備することで、コーセー独自のブランド商品が生み出される。販売において

は顧客とのつながりを意識し、顧客がブランドに触れる機会を増やしている。また各ブランドで容器回収を導入することで、人と地球に配慮した循環型商品設計を行っている。そして顧客の声や反響を重視し、商品開発へと生かしている。このサイクルによりコーセー独自の価値は保たれ、また持続的に生み出されている。それによりコーセー独自のブランド力という競争優位性もまた保たれると考えられる。またコーセーはグローバルに影響力のある企業を目標としており、今後グローバル市場においてさらなる顧客を獲得していけるかどうかということが、競争優位性の持続という観点から重要になってくるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

コーセーは人的資本に関して、世界で活躍できるプロフェッショナルな人材の育成を目指すとしている。またダイバーシティ&インクルージョン経営による多様な人材の育成を目指すとしている。これらの目標のためコーセーでは多様な個性が活躍する重要性やキャリアプラン構築に向けたセミナーを開催したり、適切な人事評価に基づいたリーダー登用を行ったりしている。現代で求められる価値観を理解しつつ、自らの想像力で思考し続けるような人材を育成することに貢献するだろう。また世界の変化に先取りして独自の価値を創出し続ける人材を育成するため、様々なスキルを学び続ける場を社員に提供している。具体的には新入社員向けに「メンター制度」を導入している。ステップアップの段階で自分自身を見直す機会が与えられるため、自身のスキルアップの機会として役立てることができよう。加えて、新入社員以外にも会社内での役割に応じた「スキル開発のための研修」や部門特性に応じた「実務研修」を設けており、会社内で自身の持続的なスキルアップが望めるだろう。しかしこれら「スキル開発のための研修」や「実務研修」の具体例が示されていないため、自身のどのような人的資本の価値を向上することができるのかということに関しては疑問が残った。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

コーセーの目指す「究極の高ロイヤリティ企業」という目標や、その目標に向けた取り組みが見るものに明確に伝わる統合報告書であったという点がよかった。アダプタブルなサービスを提供すること、ジェンダーフリー・多様性を重視すること、地球環境を考えることなど、コーセーの取り組みや将来像を容易に理解することができた。また2022年度の売上高、営業利益、ROE、ROA等、また時系列の売上高の推移が明記されていたので、財務状況を簡単に知ることができるのは良いことだと感じた。一方で、人材育成に関して具体的な研修内容や研修の様子が統合報告書に記載されていないため、人材育成に関して疑問が残った。またグローバルに活躍できるプロフェッショナルな人材育成を目指す点と記載さ

れていたが、どのような活動を通して具体的にどのような人材を目指すかという記載がなかったため、中途半端に感じてしまった。人材育成に関して、研修内容やグローバルという観点について具体的に記すとともに、社員から集めた育成に関する声や感想、意見などを記載するなどすれば改善されると考えた。